

創刊号 2009.4.18 オレンジ新聞

読むと元気になる 活字のビタミン

小山薫堂（責任監修）
幸いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

ビタミン トピックス

指令

映画「おくりびと」のオスカー獲得から3週間後、脚本を担当した僕のもとに、突然一通の手紙が届きました。差出人は庄内の小学校の先生。この手紙が全てのはじまりでした。その小さなドラマを、山形出身の新人・ジュニアくんがリポートします。（小山薫堂）

「おくりびと」を日本のどの小学生よりも熱心に応援し続けてきた子供たちが庄内にいることを知ってほしい」手紙にはそんな思いが込められていました。自分たちが生まれ育った庄内に誇りを持って欲しい。生と死について考えさせたい。手紙の送り主である佐藤修太郎先生が「おくりびと」と出会ったのは、そんな思いを生徒たちに伝えたいと試行錯誤しているときでした。

映画のテーマに共感した先生は、地元庄内が舞台となっているこの題材を使うことを決めます。同じように作品を観て感動した生徒たちは、庄内と「おくりびと」をPRするため、仙台駅前で身の丈ほどもあるポスターを抱えながら、呼びかけを行ったというエピソードを知ると、僕たちははじめてもたつてもいられなくなつたのです。今度は僕たちがみんなの気持ちにこたえる番。薫堂さんが徹夜で完成させたビデオメッセージを託されると、僕は庄内余目第二小学校の卒業式に向かうことにしました。

会場には、この卒業の日を祝うために多くの人が集まっています。生徒たちがバラバラに細心の注意で準備を進め、ドキドキとワクワクが入り混じるなか、いよいよライブの瞬間が訪れます。

先生の合図で会場が暗くなると、スクリーンに薫堂さんが登場しました。突然のことには会場はざわめき、「あ、小山さんだ！」と立ち上がる生徒たちもいて、何が起こったのか分からないけれど、きつと楽しいことが始まったんだ、という期待感が広がりました。「君たちの庄内が世界で一番になりました」と映し出されると、はじめは騒いでいた生徒たちも徐々にスクリーンに入り、語りかけるようなメッ

「おくりびと」を日本... (見入りの続き)



卒業生たちが佐藤修太郎先生へ宛てた寄せ書き。挑戦、絆、協力など、クラスの雰囲気を象徴するような言葉がちりばめられている

もしかしたら、庄内で生まれたそんな小さな感動も、「おくりびと」の人氣を支えた要因のひとつかもしれない。佐藤先生と余目第二小学校の生徒たちに出会うことで、故郷を思う素晴らしい気持ちに気づかされたのは僕の方でした。（ジュニア）

オレンジ新聞 創刊のご挨拶 小山薫堂

このたび、毎月第3土曜日に1ページの紙面を預かることになりました。と言っても、単なる月一の連載ではありません。新聞の中に存在する、もう一つの独立した新聞です。この紙面のみ、小山薫堂責任監修のもと、オレンジ・アンド・パートナーズの社員たちが構成します。

活字はきつと心のビタミンになる。そう信じて、読んだ人が元気になるような新聞を目指します。どうぞよろしくお願ひします。

野口くん 出番です!
日常をちよつぱり元気にする千円の使い方

誰もがどこにいても電話をできたり、メールでコミュニケーションができる時代。とても便利だけれど、

はなけるくん@小山

新商品ですか、はなけるくん。

これは!!

まさに青春の味!!

初恋を思い出すほどおいしいって...

お楽しみください!!

人に伝えたくくなる名言

迷ったら買わない。
迷ったら買わない。
でも、迷ったら...やる。

カカコム相談役 穂田啓輝

ど、一方でそれは、人... (野口くんの続き)

スキ! だから 広告

一目見たその時から、心奪われてしまった。世界最大級の色数を誇る、5000色の色鉛筆。5000本をズラリ

と並べてみると、壮観!... (スキ! だから 広告の続き)